

BANANA FISH

2022年7月1日

1 / 2

いきなりだが、私が皆さんに紹介したいTVアニメ作品がある。

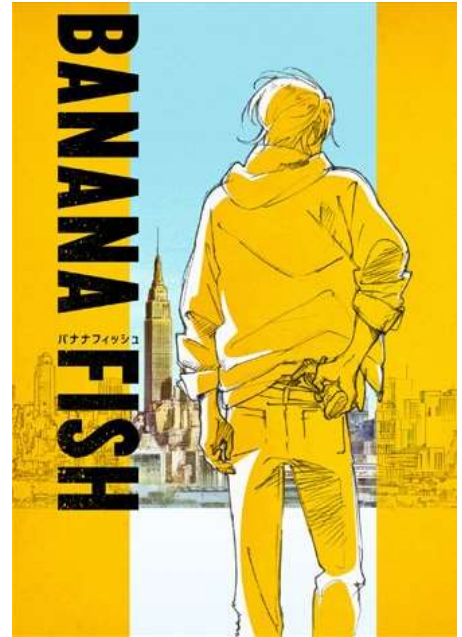
それが『BANANA FISH』という作品だ。

原作は、1985年～1994年まで「別冊少女コミック」にて連載された少女漫画であり、作者は「海街diary」などで知られる人気漫画家・吉田秋生だ。その作品が、20年以上の時を経て、2018年にTVアニメとして映像化された。

皆さんはここで疑問に思ったかもしれない。

「男なのに少女漫画!？」と…

実は、この『BANANA FISH』という作品、女性の登場人物がほとんど登場しないのである。



ここで、物語のあらすじを説明したいと思う。

物語は、1973年・ベトナム戦争の現場から始まる。

そこで、一人の兵士が「バナナフィッシュ」という謎の言葉を残して亡くなってしまう。

時は移り、1985年・ニューヨークのダウントウン。

ストリートギャングのボス・アッシュリンクスは、路上で撃たれた男と出会い、「バナナフィッシュに会え」という遺言を残して息絶えてしまう。その頃、日本からストリートギャングの取材のために、もう一人の主人公・奥村英二がニューヨークにやってくる。アッシュと英二は、「バナナフィッシュ」の謎を巡り、ストリートギャングとマフィアとの抗争に巻き込まれていく…というのが物語のあらすじである。

ここまでのあらすじを見る限り、少女漫画というにはあまりにも硬派な作品のようにも思えるかもしれない。少女漫画的な要素があるとすれば、英二がヒロインのような役割をしているところだろうか。(マフィアがアッシュをおびき寄せるために、英二をさらっていく場面が何度かある)

しかし、『BANANA FISH』には作品として多くの魅力がある。

その魅力の一つは、作中で描かれるアッシュと英二の深い絆である。

アッシュ・リンクスは、17歳という若さで美貌、IQ180以上の頭脳、ずば抜けた運動神経、リーダーとしてのカリスマ性を兼ね備えたストリートギャングのボス。

奥村英二は、カメラマンの助手としてニューヨークにやってきた19歳の日本人の青年。

アッシュと英二は、育った環境も、国籍も、人種も、価値観も全く違う世界で生きてきたが、魂が惹かれあうように親密になっていく姿は心を打たれる。

作中でアッシュは何度も英二に「俺たちは住む世界が違う」と訴えるが、それに英二はこう答える

「僕たちは肌の色も目の色も生まれた国もすべて違う。

でも、僕たちは友達だ。それで十分なんじゃないかい?ほかに何か必要なものがあるの?」

BANANA FISH

2022年7月1日

2 / 2

アッシュは、自分の世界に引き込んでしまった英二を守ろうとし、英二もまた傷ついたアッシュを守ろうとしている。物語が進むにつれて、二人は友達や恋人という言葉では片付けられないほど深い関係で結ばれていく。このような「名前のない関係」に私は憧れてしまう。

漫画は20年前の作品であるが、アニメは現代風に多少アレンジしてある部分もある。アニメは、全24話あり、物語の舞台がニューヨークということもあってか、海外ドラマのような感覚で見ることができる。アッシュの切なくも美しい物語を是非見ていただきたい。

設計部 伊藤